

城と史跡を歩く会\*平成15年10月8日(水曜日=予備日15日)

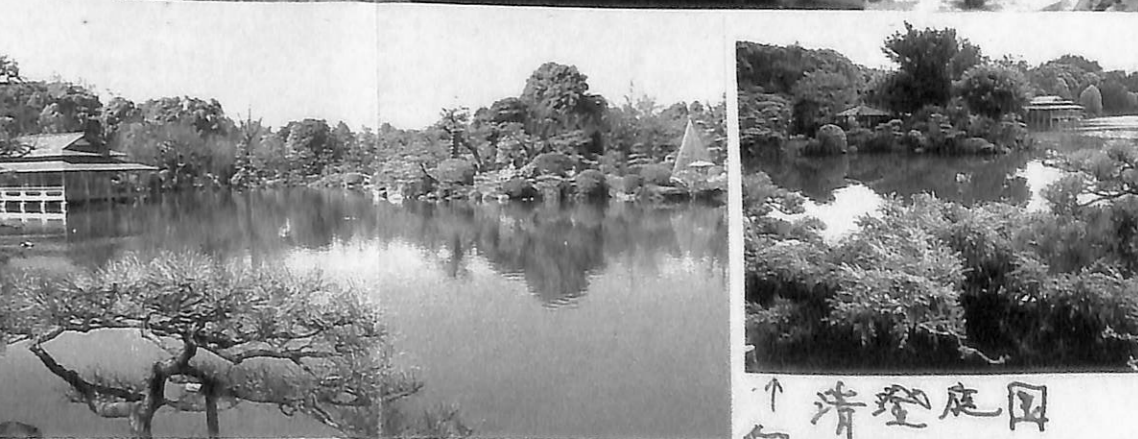
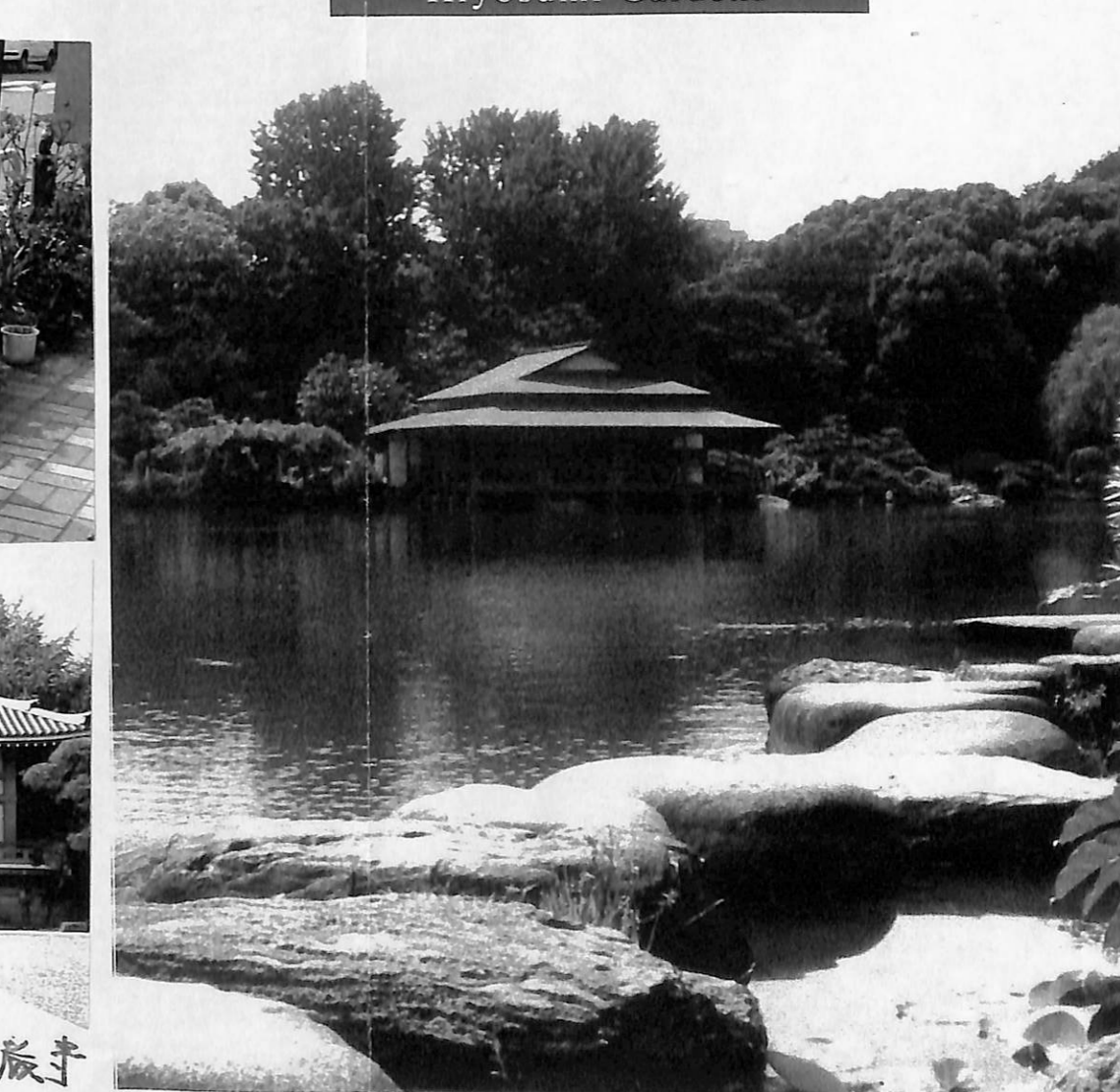
第26回「深川に江戸を歩く」

往路=八幡宿8時09分、千葉24分着、48分発(②番線総武各駅  
前の方乗車)、本八幡9時17分着、(都営新宿線)森下10  
時00分ころ着、都営A3側改札口集合)  
復路=東西線門前仲町16時30分ころ乗車、西船橋、千葉経由、  
八幡宿18時ころ着

- 主なコースと見どころ 最初のJR切符=八幡宿(円)本八幡
- ①深川神明宮=深川地名碑でいわれと小史。深川めしの老舗前などを通過。
  - ②芭蕉記念館=芭蕉資料を展示。小庭で小休息。有志は自由見学(100円)
  - ③隅田川遊歩道=元利根川。はじめ武蔵と下総の国境。江戸市民憩いの地が遊歩道に。新大橋、清洲橋、隅田川大橋。川風が心地よい。延々と続くコンクリート堤はゼロm地帯を高潮から守る。
  - ④芭蕉庵展望公園と芭蕉稲荷=深川芭蕉庵跡。延宝8年から14年間居住。古池や蛙とびこむ水の音。小池に蛙像。展望台の眺めもすばらしい。
  - ⑤小名木川と万年橋=深川を東西に2分する運河。房総の旅人も江戸へ。元禄15年12月15日、吉良上野介を討取った赤穂47士が泉岳寺めざす。
  - ⑥清澄公園(昼食)=岩崎邸コンドル西洋館跡地。森林公園で昼食。
  - ⑦清澄庭園=関宿久世5万石下屋敷を三菱岩崎弥太郎が改造。池泉回遊式園。天泉水、磯わたり、枯滝石組。木々の緑も見どころ。
  - ⑧霊巖寺=家康、秀忠ゆかり。霊巖島を埋め立て明暦大火で現在へ。深川最大の名利だが昭和戦災焼失。桑名松平家墓所。寛政の改革定信眠る。
  - ⑨紀伊国屋文左衛門の墓=江戸中期の豪商。蜜柑船。柳沢吉保失脚で没落。
  - ⑩深川江戸資料館(大休憩)=希望者は館内自由見学(団体200円)。深川の町並を実物大で再現。スクリーンや照明で演出。一見の価値十分。
  - ⑪雲光院阿茶の局の墓(深川資料館希望しない人で)=家康の側室で才媛。大坂の陣和議交渉、家光娘の後水尾天皇入内に母代わり従1位。市原ゆかり。五井神尾家の母。宝篋印塔は黒ずむ。市原500石分家守重の墓。(進行、天候により以降のスケジュールを変更することがあります)
  - ⑫深川不動尊=元禄以来永代寺(廃寺)で成田不動の出開帳。明治、跡地に不動堂建立。芸能人、花街が信仰。参道賑わい、下町の雰囲気。
  - ⑬富岡八幡宮=徳川家の武運長久、天下泰平祈願寺。深川の発展と車の両輪で繁栄。山王社、神田明神と江戸3大祭。重さ4.5t日本1の神輿。城と史跡を歩く会=0436-42-2237山岸弘明



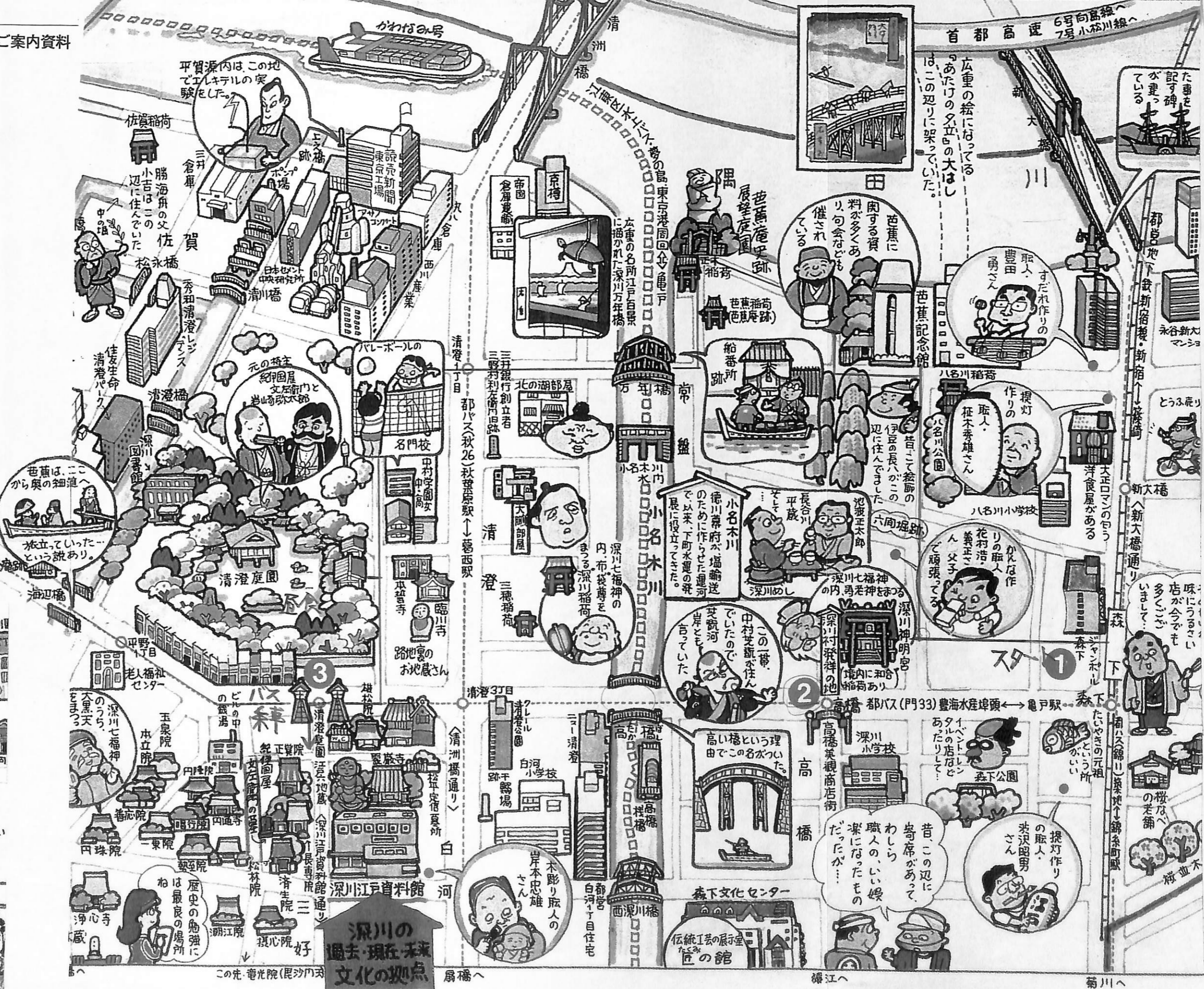
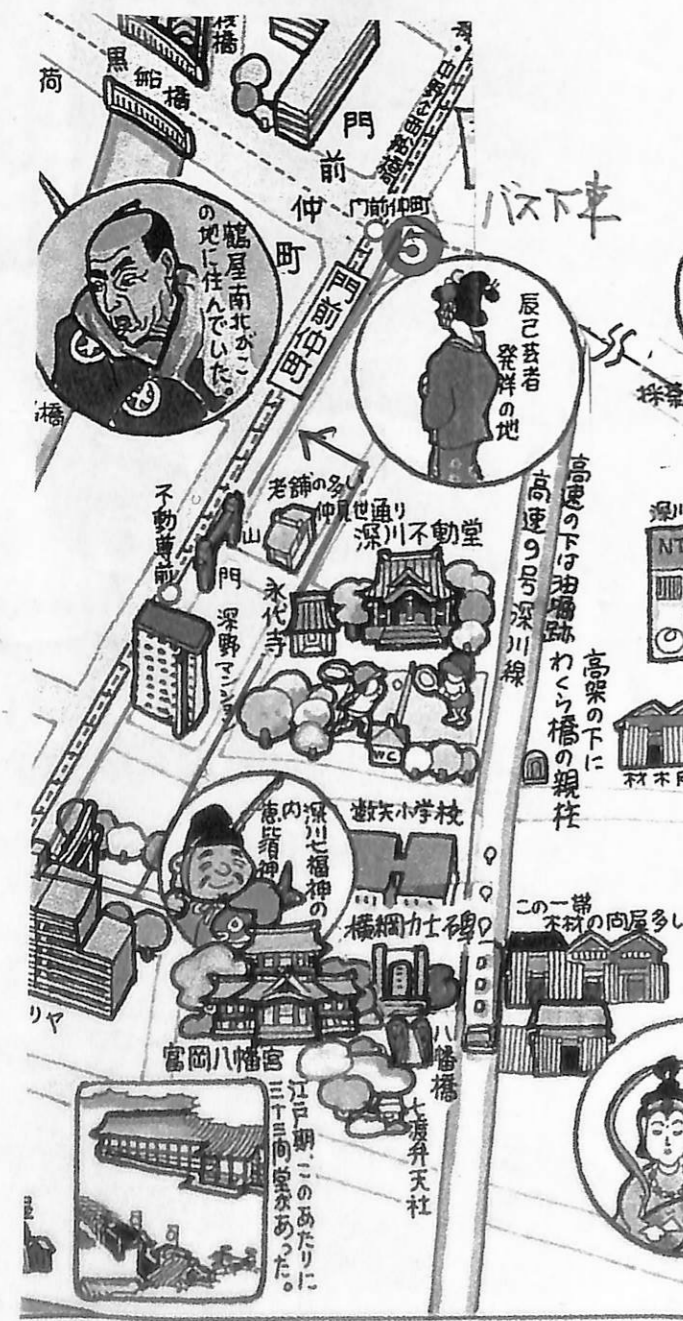
←隅田川遊歩道  
深川不動尊  
富岡八幡宮  
**清澄庭園**  
Kiyosumi Gardens



お 01177  
[観覧券] 大人(高校生を含む) 団体 200円  
1人1回につき  
20人以上申し込み

城と史跡を歩く会第26回 「深川に江戸を歩く」ご案内資料

平成15-10-8  
本日の案内コース



最新版の江戸大辞典は記事が充実している

「深川江戸資料館周辺を散歩」

<日時>	平成15年10月8日(水曜日=予備日15日)
<主要行程>	八幡宿8時09分、千葉24分着、37分=変更注意(②番線総武各駅最前1~2両乗車)本八幡9時10分ころ着、(都営新宿線260円)森下9時50分ころ着 都営A3出口集合、開会式。深川碑 — 芭蕉記念館 — 隅田川親水公園 — 芭蕉展望公園 — 清澄公園 — 清澄庭園(昼食) — 靈巖寺 — 紀文の墓 — 深川江戸資料館 — 雲光寺 — バス移動(200円) — 富岡八幡宮 — 深川不動尊 — 東西線門前仲町、西千葉、千葉経由八幡宿18時ころ着
今回は芭蕉記念館、清澄庭園、深川江戸資料館が有料です。団体入場のため受付時に会費含め1人1000円を徴収します。	

山岸 弘明

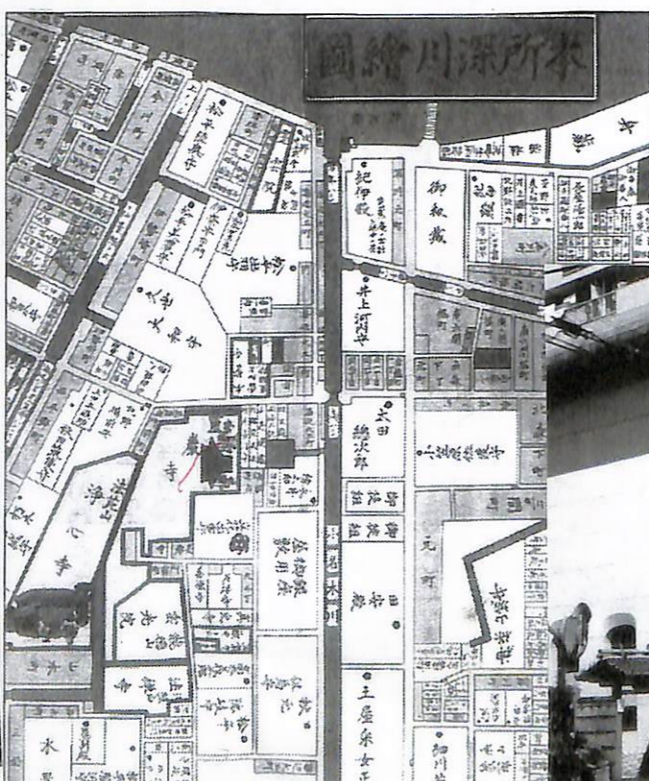
- はじめに(地名のいわれ)
  - 江東区=昭和22年、深川、城東区が合併した新しい区。江は海、東京湾東の意。墨田川と荒川に挟まれた低地と江戸はじめ以来の埋め立て干拓地からなる。
  - 森下=酒井左衛門尉下屋敷のうっそうとした森の下が発展して町家に。
  - 深川=後出。家康の命名という。
  - 常磐=寛政2年大火後の代地。常磐の松にちなむ。
  - 清澄=江戸はじめ開拓した清住弥兵衛から。はじめ弥兵衛村で元禄から苗字の清澄に。
  - 白河=靈巖寺に葬られた白河楽翁を讃えて町名に。
- 深川神明宮の深川碑(森下1)
  - 昔、芦の茂る低地。天正ころ撰津(大阪)からきた深川八郎右衛門が開拓。当初地名がなかったが、慶長はじめ、徳川家康が鷹狩りにきた時、開拓者深川の名を地名とするように命じた。深川は明暦大火後の江戸の拡張で栄え、深川家も代々大庄屋を勤めたが、宝暦年間に不正があったとして断絶となった。
  - 深川神明社は深川家が勧請、深川村の鎮守(守り神)として今日に至っている。
  - 深川七福神=寿老神(人)。杖をつき頭の長い老人。長寿の神様。正月は七福神巡りで賑わう。
  - 庚申塔=8基。元禄10年銘ほか。元禄年間に庚申信仰が全国的に流行した。青面金剛や三猿の顔が削られたものは明治の神仏分離で仏教の延長として破壊されたものだという。
- 六間堀と初蔵跡(新大橋3、森下1、常磐1)
  - 小名木川と堅川を結ぶ六間堀。川幅6間が川名に。ちよき船がゆききした。川跡と両側の川堤道跡がよくわかる。
  - 深川飯=深川名物のあさりご飯。本家みやこに江戸情緒漂う。
  - 初蔵跡=寛政の改革で松平定信が行なった飢饉災害救助用備蓄米の倉庫。明治はじめまで4,000坪の敷地に11の倉庫を並んだ。



深川神明社

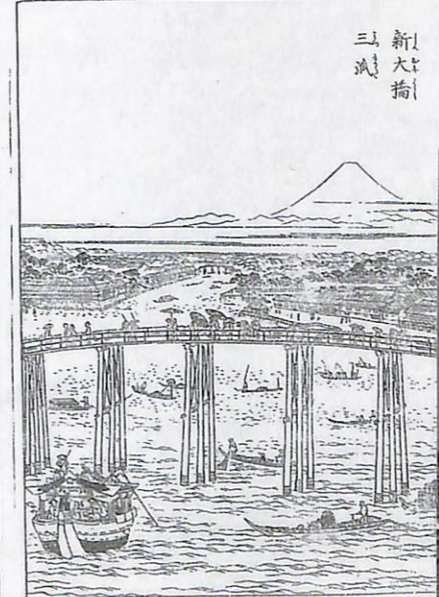


深川町



江戸切絵図

芭蕉記念館↓



←芭蕉像  
隅田川と親水公園→



←新大橋  
芭蕉稲荷→

←芭蕉像  
隅田川と親水公園→

- 芭蕉記念館(常磐1=団体入場)
  - 松尾芭蕉(通称忠右衛門)=江戸前期の正保元年三重県生まれの俳人。寛文年間に江戸へ出、深川芭蕉庵(後出)に居住。この地を本拠に全国に俳諧の旅に出た。
  - 記念館=ゆかりの深川に昭和56年開館。芭蕉の書簡、与謝野燕村筆の芭蕉図などを展示。芭蕉庵跡で発見された芭蕉愛好の石蛙も必見。
  - 芭蕉の句に因んだ小公園。築山、池、滝など。芭蕉句碑も。ゆっくり一巡。草の戸も 住み替わる世ぞ ひなの家(芭蕉=元禄2年、46才)
- 隅田川と新大橋(新大橋1)
  - 隅田川=武蔵と下総国を分けて江戸湾にそそぎ、大川、浅草川ともいった。江戸水運、物資輸送の拠点で、川岸に多くの江戸名所を抱えた。明暦以降、相次ぐ江戸大火の防火対策として深川側も江戸とされ、武家屋敷や町家が作られた。
  - 新大橋=元禄6年架橋。工事は入札で晴天80日、幕府用材を使って2,343両かかった。当時両国橋の大橋に対する新大橋。新という名の300年。たびたびかけ替え修理が行われ橋銭を徴収したことある。往時長さ116間、位置は200メートルほど下流の泰晴運輸の所。
  - ありがたや いただいて踏む 橋の露 芭蕉が便利になった住民の気持ちを俳句に。
- 親水公園(常磐1)
  - 防潮堤=かつて洪水のメッカ。0メートル地帯を高潮から守る。
  - 美しい新大橋、清洲橋を眺めながら川岸を散策。
  - 名月や 池をめぐりて 夜もすがら(芭蕉=貞享3年、43才) あられきくや この身は元の ふる柏(〃 =天和2年、39才)
- 芭蕉庵史蹟展望公園(常磐1)
  - 芭蕉庵展望公園=芭蕉像が隅田川を見つめる。ベンチから眺める隅田川の川面、右手に新大橋、正面に清洲橋、左手に万年橋がかかり、時折水上バスが行き来する。
  - 深川芭蕉庵跡=37才の延宝8年から元禄7年51才旅先病死までの芭蕉住居。門人が庵に植えた芭蕉から芭蕉庵の名が付き、号とした。ここから旅に出て「奥の細道」などの紀行文を残した。元禄7年、大阪で死去、大津市の義仲寺に葬られた。芭蕉稲荷=芭蕉像と石造りの蛙、由来碑 古池や かわずとびこむ 水の音(芭蕉=貞享3年、43才)
  - 跡地は武家屋敷地となり、松平桜井遠江守、紀伊下屋敷、維新後野田醤油会社などを変遷した。
- 小名木川と万年橋(常磐1、清澄)
  - 小名木川=深川を東西に横断する運河。徳川家康が江戸入りにあたり、行徳の塩を江戸に運ぶ水路として開く。房総、東北の物資や旅人を運んだ。ただし、房総諸藩の参勤交代路としては認められず、成田佐倉路をわざわざ千住経由して江戸に入った。
  - 万年橋=常磐と清澄を結ぶ。元禄時代、赤穂浪士も通過。
  - 安藤広重の「名所江戸百景」では太鼓橋の橋桁から富士山を望む。現在は鉄橋、墨田川向こうは近代ビルが建ち並ぶ。
  - 船番所跡=江戸はじめの水路警備隊。通行する船を止めて人や荷物を改めた。寛文元年、小名木川河口の中川番所に移る。跡地は船手の御船蔵で、小名木川沿いに御船手組屋敷があった。
  - 正木稲荷=古来からの祠。境内に柱の大木があったことに由来

9) 赤穂浪士引上げの道 (森下1)

- ①町家と武家屋敷が混在した町=六間堀河岸、深川六間堀町、深川八名川町、御初蔵
- ②元禄15年12月14日、めでたく吉良邸に討ち入り、本懐を遂げた赤穂浪士大石内蔵助以下47士が人目を避けながら主君浅野内匠頭の眠る高輪泉岳寺をめざす。一行はこの先万年橋を渡り、永代橋たもとちくま屋(福住2-5=現存)で休息、甘酒が振る舞われた。

10) 相撲部屋の町 (清澄2)

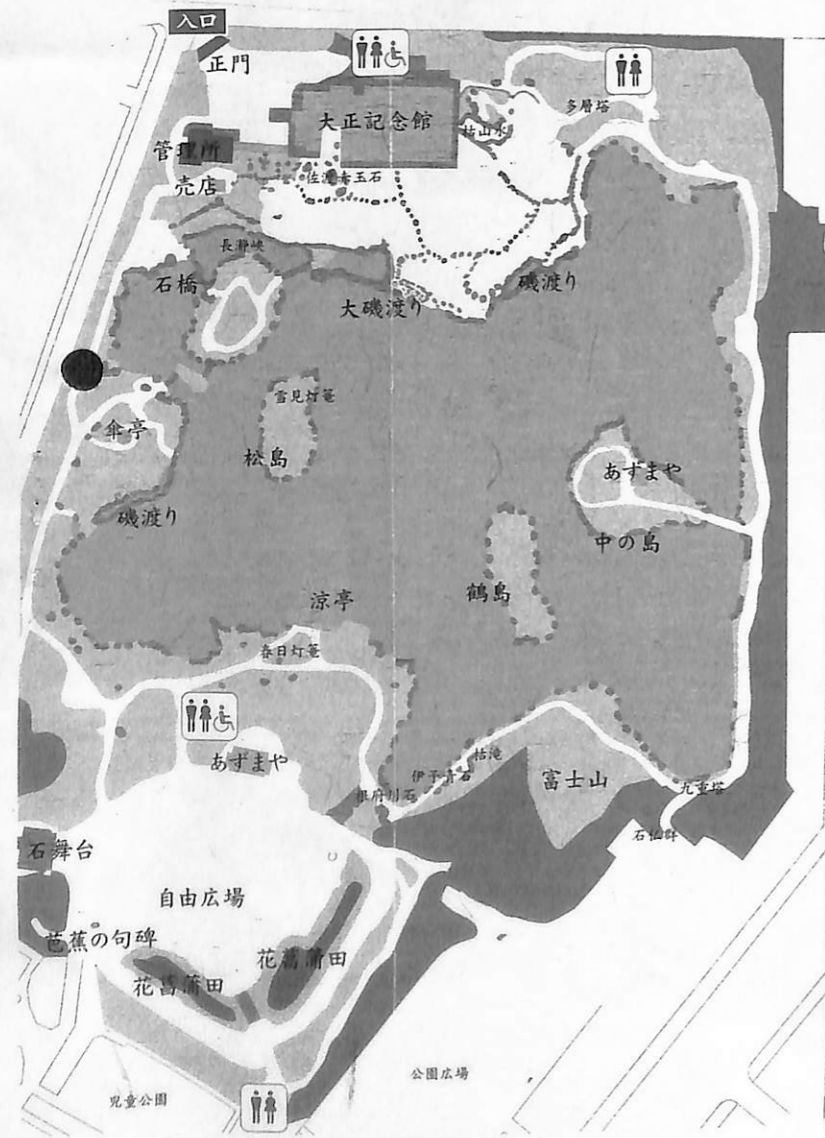
- ①両国は相撲のメッカだが、隣町の深川にも相撲部屋が多い。運がよければ力士の姿も。
- ②北の湖部屋、大鷲部屋などが並ぶ。

11) 清澄公園 (清澄3)

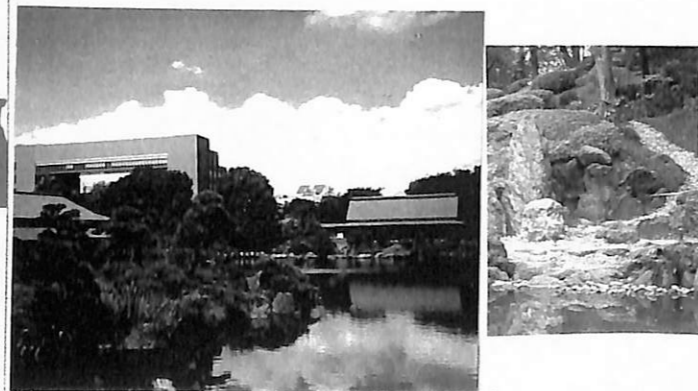
- ①昭和51年完成の都立公園。およそ3万㎡の森林公園。
- ②宇都宮戸田藩7万石下屋敷、津山松平藩10万石下屋敷跡。かつて岩崎家のコンドル西洋館があったが関東大震災で焼失。ともに面影ない近代洋風公園。

12) 清澄庭園 (清澄3=団体入場。途中昼食)

- ①関宿5万8千石石久世大和守下屋敷跡で伝紀国屋文左衛門邸跡。維新後清澄公園を加えた10万㎡を三菱の岩崎弥太郎が買収して造園し直した。庭園は優雅宏壮、名石奇岩が多いことで有名。
- ②池泉回遊式庭園。本来は潮入り庭だが現在の水源は井戸水。
- ③前庭=大正記念館前の芝生を飛び石伝いにすすむ。最初、池がみえないのが庭園造りの技法。大泉水=眼前に池泉が広がる。池は静かに水を蓄え、木々の緑が池面に写る。右に松島、左に鶴島、左前に中ノ島、対岸の数寄屋造りが望める。最初の絶景ポイント。大磯渡り=磯渡りは池の中を岸にそって石を飛び飛びにおいて歩けるようにすること。2~3mもある自然の巨石を渡る。第2のおすすめポイント。長瀬峡、石橋=渓谷風の小池。2枚の切石を組み合わせた石橋、石組も風情がある。小規模の磯渡り、傘亭=このあたりが紀国屋文左衛門邸跡ともいう。涼亭=明治42年英国陸軍元帥接待のために建造されたもの。現在は集会場として使われている。富士見山と枯滝石組=築山の麓に枯山水、みごとな滝石組。清澄庭園には日本各地の名石がいたる所に配置されている。岩崎家が自社の汽船で全国から収集したものという。第3ポイント。中ノ島=土橋を伝って一周。3つめの磯渡りを越えると大正記念館前の芝生に戻る。



清澄庭園



13) 本誓寺 (清澄3)

- ①浄土宗の寺。中世後期小田原に創建するが戦火焼失、家康の命で江戸へ移された。江戸4か寺の1つで、朱印寺領30石を受け、馬喰町時代、朝鮮使節の宿舎とされた。
- ②かるら立像=インド神話の架空の大鳥。甲冑を付け横笛を吹く。伝来のいわれは不詳。
- ③村田春海の墓=賀茂真淵門下4天王の国学者。

14) 靈巖寺 (白河1)

- ①浄土宗。家康、秀忠、家光3代に信頼された靈巖が、寛永元年靈巖島(現中央区)を埋め立てて創建。明暦大火で焼失、万治元年現在地に移転。江戸時代は学寮を擁した名刹で寺領は50石。
- ②正元の江戸6地蔵=銅造金箔、地蔵菩薩座像。深川に住んでいた武蔵坊正元が重病にかかり地蔵祈願によって平癒したことで江戸街道筋入口に6地蔵を寄進。品川寺、東禅寺、太宗寺、真性寺ほか。
- ③松平定信=8代将軍吉宗の孫、御三卿田安宗武の7男に生まれる。松平越中守家を養子継承、藩政に力を注ぎ、天明7年、田沼意次後の首席老中として寛政の改革を進める。江戸町法の制定など江戸庶民の恩人とうたわれた。
- ④桑名松平家墓所(別図参照)=石門は施錠されているので覗きこむ。正面の角石が国指定史蹟松平定信、隣が正室松代10万石真田幸貫の娘。墓前の石灯籠8基は早死を悼んだ父の幸貫が寄進。その隣は継室、最奥の宝きょう印塔は家康の義弟定勝の3男定綱、白河松平藩の藩祖になる。
- ④一般墓地に高田柳原、尼崎桜井、今治松平、膳所本多、神戸本多家などの墓がある。

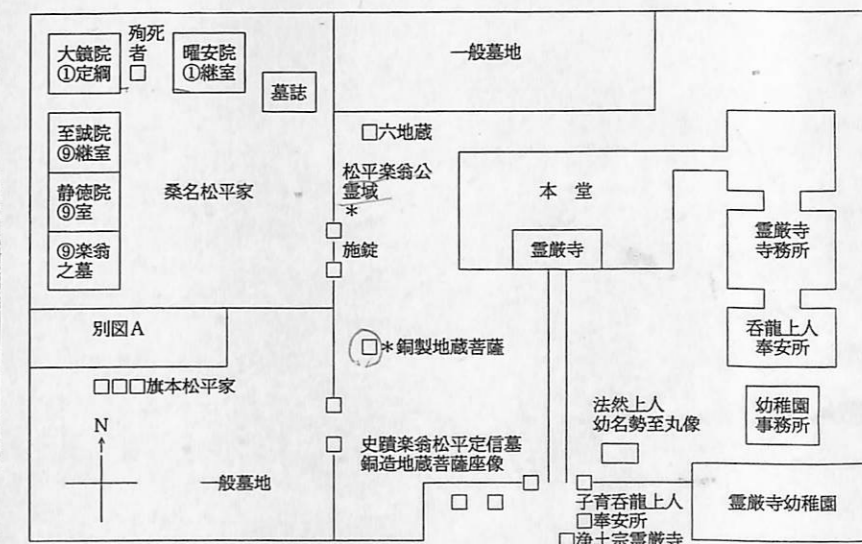
→ 本誓寺が泣像



松平定信 ↓ 9差

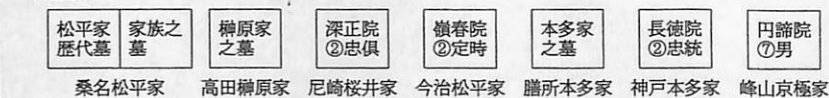


靈巖寺(浄土宗)江東区白河1-3



平成13-9調べ

別図A



主要墓碑

- 桑名松平家
- ①定綱=大鏡院取定一法大居士位(宝きょう石垣上およそ5m=慶安4年)
- ①" 継室浅井氏=唯安院殿秋月晴理光大師(宝きょうおよそ4m=万治2年)
- ①定信=故白河城主桑翁公之墓(角石石垣上およそ2m=文政12年)
- ①" 室松平氏=静徳院殿操善謙光真純大師(宝きょうおよそ3m=天明元年)
- ①" 継室加藤氏=至誠院殿心誓智光慈準大師(角石およそ2m=弘化4年)
- 歴代藩主合祀=旧桑名藩主松平家歴代之墓(角石およそ2m=昭和4年)
- 高田柳原家
- 旧高田藩主柳原家墓(宝きょうおよそ3m=昭和3年改葬)
- 尼崎桜井家
- ②忠俱=□正院殿念誓浄梵道誓大居士(宝きょうおよそ3m=元禄9年)
- 今治松平家
- ②定時=嶺春院殿実誓善安恵相大居士(五輪塔およそ3m=延宝4年)
- 膳所本多家
- 旧膳所藩主本多氏之墓(位牌型およそ3m=昭和4年)
- 神戸本多家
- ②忠統=長徳院殿前予州刺史浄誓拙翁大居士靈篋(位牌型およそ3m=宝暦7年)
- 旗本松平桜井家(寛政譜1-40、40、37=300石、2,000石、2,000石)
- ①忠輝=真性院殿覺誓常居居士、大師、松平左内源忠輝(傘塔およそ1.5m=享保2年)
- ①忠久=乘運院殿前布護岸誓光山壽居士覺位、松平隼人正忠久墓所(〃=延宝4年)
- ①忠直=唯光院殿一□道徹天禅定門、松平淡路守忠直(宝きょう礎石のみ=正保3年)

← 唯光院



15) 長専院 (三好1)

- ①浄土宗。旧靈巖寺塔頭別院。徳川四天王榊原康政3代忠次が靈巖島に創建、靈巖寺とともに移転。
- ②5代榊原政倫の墓=姫路15万石から村上15万石に国替え、子孫はいったん姫路に戻るが政岑が享保の改革中に遊女を落籍したことで吉保の怒りを買って蟄居、高田国替えとなった。昇安院殿住持菅知真本英大居士(五輪塔およそ4m=天和3年2月27日)門柱にも巨大宝篋印塔の残欠
- ③出世観音(不動尊)、奉獻和歌の碑、石灯籠、力石、石水盤

16) 成等院、紀伊国文左衛門の墓 (三好1)

- ①浄土宗。靈巖寺塔頭。万治元年移転。
- ②紀伊国文左衛門(紀文)の墓=紀伊出身、江戸中期の豪商。商才に富んだ紀文は柳沢吉保や勘定奉行の荻原重秀と組んで元禄バブル建設ブームの波に乗って土木建築工事を引き受けて財をなすが、柳沢吉保失脚後没落、享保3年この地で寂しい歿、54才。小さな墓。碑面は欠け読めない。紀文の碑=紀伊青石の自然巨石。昭和38年建立。前に紀文の由来碑も。

17) 資料館通り(元区役所通り) (白河1)

通り入り口にさらさら子張常夜灯を模した街灯。両側に江戸趣味の店、みやげ物、軽食堂などがならぶ。資料館のプロローグにふさわしい。

18) 深川江戸資料館 (白河1=団体入場)

- ①昭和61年開館。江戸展示室には深川佐賀町にあった長屋、土蔵、宿屋、茶店、船宿、火の見櫓など町並みを実物大で再現。スクリーンや照明で雰囲気をつまみに表現する。
- ②はっさん、くまさんの住んだ裏長屋。庶民の生活をかいま見る。屋根上の猫はだれもが分かるが、長屋の鼠像を発見した人は努力賞もの。

19) 雲光寺 (三好2=元気組だけ。普通組は深川資料館で休憩)

- ①徳川家康の側室、阿茶局開基の寺。巨大宝篋印塔は黒ずむ。
- ②家康の後家好き=加茂神官の後家を家康狙う。才媛。大坂の陣で大坂城に乗り込み和議交渉。秀忠娘和子の後水尾天皇入内に母代わりで従い、將軍同格の従一位に。
- ③市原ゆかり、五井2千石神尾家の母。分家200石市原地頭、守重の宝篋印塔も。

20) 清澄公園バス停からバス移動

- ①各自払い200円=およそ8分、5つめ門前仲町下車  
時刻表14時42、57分、15時12、26、39、51分
- ②発車すぐ、車窓右手仙石堀川が芭蕉「奥の細道」旅立ちの地。旅立ちの像が一瞬みえる。

21) 富岡八幡宮 (富岡)

- ①伝8世紀、寛永元年創建ともいう。祭神は天照天皇、日本武尊ほか。江戸はじめ寛文4年、別当寺永代寺が社殿を造営。江戸の繁栄とともに社運もさかんとなった。
- ②社殿は度々の火災で焼失、現在の朱塗りの華麗な建物は昭和31年、大鳥居は39年の再建。
- ③本祭は浅草三社祭、神田明神祭、日枝神社山王祭と並ぶ江戸の大祭として知られる。日本一の大神輿
- ④伊能忠敬の碑  
横綱の碑、大関の碑  
木場の角乗りの碑、力持の碑、関東郡代伊奈家寄進石灯籠

22) 深川不動堂 (富岡)

- ①真言宗智山派。成田山新勝寺の東京別院。永代寺の出開帳で江戸庶民の信仰を集めた。
- ②明治11年、成田山から不動像を勧請して堂宇を建立。昭和20年戦災焼失。昭和26年再建。
- ③毎月1、15、28日は縁日で賑わう。

23) 永代寺跡 (深川公園=富岡)

- ①一帯の江戸はじめは永代島。江戸湾の海浜であったが、埋め立て永代寺を開く。富岡八幡宮の別当寺という名刺であったが明治維新の廃仏棄釈の嵐の中に廃寺。江戸6地蔵(銅造地蔵菩薩座像)をおいたが現存しない。
- ②門前仲町は永代寺の門前町。周辺に幕府非公認の岡場所、辰巳花街が繁栄した。



↑ 深川江戸資料館



紀伊國文左衛門之墓



出世不動尊



永代寺跡



← 深川不動堂



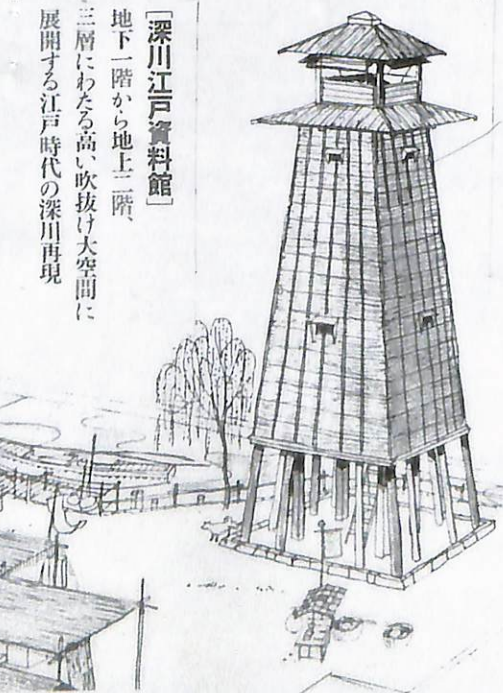
↑ 横綱研刻式



← 江戸の大祭



↑ ↑ 富岡八幡宮



「深川江戸資料館」  
地下一階から地上二階  
三層にわたる高し、吹抜け大空間に  
展開する江戸時代の深川再現



雲光寺

城と史跡を歩く会♡第26回「深川に江戸を歩く」

平成15年10月8日(水曜日) \*ALBUM

主要コース

都営地下鉄新宿線森下駅、深川神明社、芭蕉記念館、隅田川親水公園、芭蕉庵展望公園、芭蕉稲荷、万年橋、北の湖部屋、清澄公園、清澄庭園(昼食)、靈巖寺、紀伊国屋文左衛門の墓、深川江戸博物館、雲光院、(バス移動)富岡八幡宮、深川不動堂、永代寺跡、東西線門前仲町駅

参加者59名 (あいうえお順=敬称略)

青木千津子、熱田百代、石井洋子、市原享子、板垣てる、稲葉ミツ子、井上勝枝、猪野春枝、板倉 満、岩村ユウ、卯月礼子、大岩勝男、岡本千代、小北絢土、小倉すみ、加藤幸子、金子昭夫、金子幸枝、神林敏夫、神林良雄、桑原絹枝、小出敏子、斉藤定子、斉藤 実、斉藤ヤス子、笹島 稔、渋谷圭吾、渋谷恵美子、白土貞子、鈴木クニ子、鈴木淳子、高城正雄、高城富子、竹上 茂、武見敏治、田中勝子、千葉範子、続木 暉、続木順子、富永利克、富永玲子、中嶋和枝、長嶋英子、長嶋さん、長嶋典子、中村節子、福嶋礼子、藤沢真知子、藤田康雄、山田恵美、吉池一彦、吉池町子、吉水正子、若菜幾世、渡辺清枝、山岸弘明、小出惣治、高澤恒子、鷲津 毅、高澤 毅

次回スケジュール

11月9日=第27回「白河城と二本松城(バス)」(満席)  
12月6日=第28回「鎌倉の朝比奈切通しと釈迦堂口を歩く」



清澄庭園と記念写真



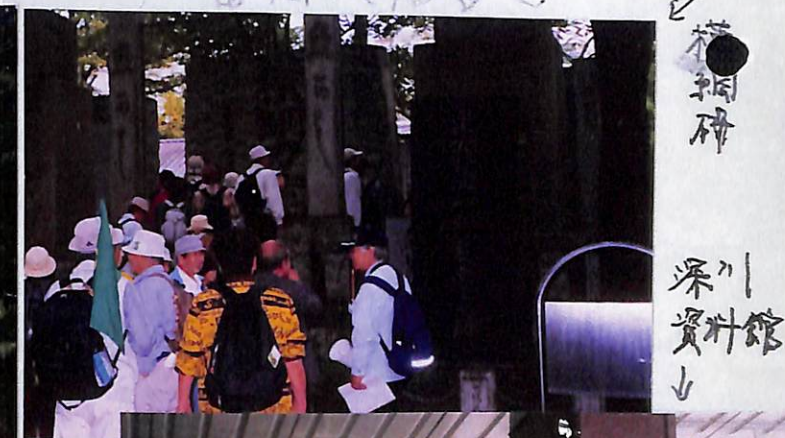
清澄庭園↑↓



富岡八幡宮



芭蕉庵跡↓



稲荷

深川資料館↓



記来由

↑深川神明社 ↓深川めし



↑芭蕉庵  
→隅田川  
と折大橋  
↓紀伊屋



←↑ ↓出世不動 ↓雲光院 ↓町茶局 ↓



霊巖寺

